

ヒューマンケア学部 看護学科

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下 CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。

【教育方法】

看護学の特性により、授業や臨地実習における教育方法は、個々の学生の認知的・社会的能力を引き出すために、ディスカッションやディベートなどの双方向の講義、学生の能動的な演習・実技・実習等を中心としたアクティブ・ラーニングに力を入れています。

看護学の授業では、臨床実践に近い状況を想定した“シミュレーション教育”を充実させるとともに、臨地実習開始前には看護技術試験を行い、終了時には、修得すべき看護技術内容が一定の標準に到達したか“客観的臨床能力試験 OSCE”で確認し、看護実践能力の質の保証に努めています。

【教育の特色ある工夫】

- ・ 教育内容は基礎的から専門的、応用的に至る学修段階を重視し《教養科目》《専門基礎科目》《専門科目》の3つの枠組みで構成し、系統的に学ぶことができます。
- ・ 《教養科目》では、幅広い知識を学び、豊かな人間性や倫理観、社会人としての教養を身につけていく。中でも本学の特色であるセミナー科目は、1～4 年次まで少人数クラスの担任制で実施し、看護専門職をめざす学生として学業や生活の定着から将来のキャリア設計までを支援し、e ポートフォリオを用いて学習の可視化を積み重ね、自律的態度と自己管理能力を身につけていきます。
- ・ 《専門基礎科目》では、疾病の成り立ちと回復の促進、社会保障制度に関連する科目など、根拠に基づいた看護が展開できるための基盤となる知識を修得できます。
- ・ 領域別の看護学で構成される《専門科目》では、対象を全人的に捉え、様々な発達段階、健康レベルに対応した個別性のある看護が展開できるよう、基礎的な知識・技術を修得し、臨地実習では、学内で学んだ知識や技術を患者の個別性に合わせ、適用させる中から、看護専門職としての思考力・判断力・実践力・コミュニケーション能力を身につけていきます。
- ・ 学内での授業や臨地実習において、障がいや疾患をもった人の語りを聴いたり、様々な看護分野で活躍しているスペシャリストの講義や活動を見学したりする機会を多く取り入れています。
- ・ 3 年次後期～4 年次の卒業研究は、希望する看護学領域での少人数ゼミ形式で行い、研究計画から発表まで一貫した指導を行います。さらに、研究指導教員が進路や国家試験に向けてのチューターとなり、担任と連携して継続的に支援します。
- ・ チーム医療に資する人材を育成するための薬学科との“IPE（連携教育）”を年々充実させています。

「応用看護論」では、臨床現場での事例をもとに薬学科の学生と合同ディスカッションを行い、協力して課題解決を行います。また、薬学科教員による「臨床薬剤学」は、臨床現場での薬の事故防止やハイリスクの薬の取り扱いなどを深く広く学べる機会となっています。

- ・ 選択制の保健師課程および助産師課程は、1 年次末に選考を行い、2 年次から順序性を考慮した学修を開始し、専門性の基本を修得する臨地実習は 4 年次に配置しています。